

令和 8 年 1 月 27 日

令和7年度第1回「カーボンニュートラル情報交換会」を開催

～東京九州フェリー「それいゆ」船内を見学しました～

(一社)日本物流団体連合会(略称:物流連)は、令和 8 年 1 月 13 日(火)、物流分野におけるモーダルシフトの推進やフェリー輸送の現場理解を目的として、東京九州フェリー株式会社が運航する「それいゆ」の見学会を実施し、会員企業・団体から 21 名が参加しました。

当日は、横須賀港停泊中の「それいゆ」に乗船。船長や航海士が操船を行う「ブリッジ」にて、岡本キャプテンより、航行に関わる各種設備や、甲板部・機関部の業務内容について丁寧なご説明をいただきました。特に、航海中の他船との接触を未然に防ぐため、目視に加え、レーダーや AIS(船舶自動識別装置)を活用しながら、約 20km 先までの船舶動向を常に監視して運航しているというお話は、非常に神経を使う業務であることが伝わり、参加者からは驚きの声があがりました。

「それいゆ」は、トラック 154 台、乗用車 30 台の車両積載が可能で、見学当日も満車予約など、高い輸送需要を実感する機会となりました。運賃は車体の全長に応じて設定されており、トレーラー単体での積載による効率的な運用が可能です。また、フェリー輸送中はドライバーが休息を取れるため、労働時間の制約を受けることなく、下船後のさらなる運行が可能となる点も、陸上輸送との違いとして注目されました。

さらに、フェリーは陸上輸送よりも振動が少なく、精密機械などの輸送に適しています。海上荒天の際はスタビライザーを使用する事で船の揺れを軽減し、安定性を高めることで貨物の損傷防止や船酔いの軽減に貢献。冷凍車用電源も多数装備されていること、旅客と貨物の両方を取り扱いながらも、売上の大半を貨物が占めていることなど、フェリー輸送の実態について多角的な理解が深まりました。



(写真) 「それいゆ」船内見学の様子

船内見学では、ドライバーサロンや露天風呂、バーベキューガーデン、スクリーンルーム、レストランなど、充実した設備をご案内いただきました。どの施設も清潔感があり、旅の高揚感を高める工夫が随所に見られました。テラス付きのデラックスルームや、ペットと宿泊可能な「ステートウィズペット」など、多様な客室タイプも人気を集めており、予約は2か月前からがおすすめとのことです。

見学後には質疑応答の時間が設けられ、参加者からは多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。フェリー輸送の可能性や今後の活用に関する議論も交わされ、会場は大いに盛り上がりました。物流連では、今後もモーダルシフトや労働環境改善に資する現場の取り組みを積極的に学び、会員企業への情報提供を通じて、持続可能な物流の実現に貢献してまいります。

以上
事務局 島